

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	キネサボ上野西			
○保護者評価実施期間	令和7年1月28日 ~ 令和7年2月7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	令和7年1月28日 ~ 令和7年2月7日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・早稲田大学の廣瀬統一教授と開発した独自の運動療法によるプログラムを導入している。	・月に1回の職員の研修と児童の実践体験を行い、運動療法についての知識を得ている。	・月に1回だけではなく、定期的に行われているオンラインのセミナーなども取り入れながら、更に知識を増やしていきたい。
2	・様々な専門的知識を持つた職員が在籍しているため、色々なジャンルの活動を行うことができる。	・月案を作成し、全職員が日替わりで集団活動を行うようにしており、自分の得意な分野を生かしながら活動を決めている。	・児童が意欲的に集団活動に参加することができるよう、個々の年齢に合わせた活動の提供を行っていく。また、同じ遊びでもルールを変えたりレベルアップさせたりし、取り組んでいく。
3	・児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型のため、未就学児から小学校高学年までの異年齢児童が利用しており、お互いに良い刺激になっている。	・困っていることを伝えたり、分からぬことを教えてもらったりすることで、自分の気持ちを伝える練習が自然とできるようになっている。	・お互いに我慢や困りが出ないよう、職員の見守りや声かけを十分に行っていく。
4	・連絡帳を通じて事業所での様子を保護者へ伝えることができるので、安心して預けることができる。	・文章での報告はもちろん、写真や動画を送って、子どもの様子が目で見て分かるようにしている。	・連絡帳だけではなく、定期的に面談や訪問も実施し、普段の様子や支援の内容を伝えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・運動療法を取り入れた支援を行っているが、職員への内容共有が徹底できていない。	・新設事業所のため、新しく入ってくる職員もいて、共有が難しい。	・新しく入ってくる職員にも分かりやすくファイリングしたり、オンラインのセミナーを受けてもらったりしながら、内容共有に努めていきたい。
2	・午後から利用の際には集団活動が主になってしまい、個別支援の実施があまりできていない。	・就学前の児童には小学校入学に向けて午後からの利用を勧めているため、集団の時間が主になってしまっている。	・個別に行う日時を予め決め、必要な支援を優先させて取り組んでいく。
3	・未就学児と小学生が一緒に活動すると、遊びが偏ってしまう。	・職員が毎日交代で集団活動を行っているが、小学生の児童が楽しめる内容になると、未就学児には難しいこともある。	・簡単な遊びでも少しずつレベルを上げていったり、グループに分けて行ったりと改善していく必要がある。
4	・保護者の見学ができる支援の実施ができていない。	・保護者へ連絡帳で様子を知らせることはできているが、実際に見てもらったり直接話をする機会があまりない。	・定期的に見学や面談等の案内を行い、実際に支援の様子を見てもらったり、自宅でできる取り組みを伝えたりしていきたい。